

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019600105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽		
所在地	苫前郡苫前町字苫前古丹別249番地9		
自己評価作成日	令和5年3月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0196400105-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人と地域や家族とのつながりを大切にしており、コロナ禍によって一部地域との交流に関して制限をせざるを得なかったが、できるだけ家族とのふれあいが行えるよう支援してきた。家族の希望を反映し、家族と本人と一緒に食事をするために外出ができるようにしたり、制限を設けながらも直接面会が行えるよう支援を行っている。職員間の情報共有等にはまだ課題も多いが、会議を再開したり、チャットツールを活用したり少しずつ改善を目指している。

利用者一人ひとりが、自分のペースで生活ができるよう配慮している。現在、一時的に入居人数が減少していることもあるが、一人ひとりの生活に目を向けた支援が行えている。食事内容も、楽しみがあるものを常に検討し、調理や提供を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年4月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫前町の古丹別地区にある平屋建て2ユニットのグループホームである。周辺にはコンビニエンスストア、郵便局、公民館、商業高校などがあり利便性に優れている。消防署や警察署も至近の位置にあり、安心できる。建物内は窓が大きくて明るく、利用者の手作りの装飾、水墨画やパズルの額縁などが飾られている。広い居間に皆が寛げるソファを置き、テレビや時計も大きく見やすいものを設置している。トイレや浴室は利用者が使いやすく、介助もしやすい造りである。町内唯一のグループホームであり、役場や地域との密接な関係を築いている。感染症流行前は地域の行事にも積極的に参加しており、流行が落ち着けば以前のように参加したいと考えている。利用者が買い物や通院に出かけた際には知人に頻繁に出会うことができている。ケアマネジメントの面では、介護計画の見直しにあたってのモニタリング表やアセスメント表の作成、担当者会議録が整備されている。今後は介護目標に沿った記録の作成を目指しているところである。医療支援の面では往診や通院の体制を整え、受診内容を適切に記録し保管している。食事の面では、材料は食材会社から提供されるが、独自に工夫を加え品数が豊富で利用者が楽しめる食事を提供している。快適な環境と行き届いた支援のもと、ゆったりと生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に理念の共有を行っている。	「利用者の思いや個性の尊重」「笑顔あふれる穏やかな生活」を謳った施設理念を掲げているが、職員間で理念を確認する機会は少ない。理念や目標などに地域密着型サービスの意義を踏まえた文言は含まれていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を、施設理念やその他のケア理念、目標等に加えることを期待したい。また、理念や目標を職員間で確認する機会を設けることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や会議等には積極的に参加し交流を図っている。新型コロナウイルスの影響によって、地域と関わる機会は減少している。	外出や通院の際に知人に出会い挨拶を交わすことがある。近隣の方から野菜やタオルの提供を受けることもある。感染症流行前は地域のお祭りに利用者も参加していた。流行が落ち着いたらまた参加する予定としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍によって地域の方々とのかわりができず、疎遠となっている。今後、参加を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は開催できておらず、書類の提出のみとなっている。	現在は文書による会議を行っているが、定期的開催することができていない。案内や議事録のメンバーへの送付も十分といえない。	今後、運営推進会議の定期的な開催を予定しているので、会議テーマの設定や、案内および議事録のメンバーへの送付も含め、計画的な実施を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が窓口となり、積極的に協力関係を築いている。	事業所は町内唯一のグループホームであり、何かあれば役場と相談できる関係を築いている。介護認定等で相談するほか、感染症対策に関する指導も受けている。最近では事業継続計画をテーマとした町主催の研修に参加した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に話し合い、身体拘束を必要としない対策を検討し実践している。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルを用意している。身体拘束に関する勉強会を増やす方針としている。玄関は日中も施錠しているが、利用者でも中から開けることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する、資料の配布や職員間でも見逃しが無いよう相互の注意を払い、業務にあたって		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらについて職員が学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はしっかりと説明を行い、ご理解して頂けるようにしている。入居後も疑問点等があれば随時説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とコミュニケーションを密にとり、ご家族様とは面会時に、思いや意見を聞き取れるよう心がけている。	家族の来訪時に話を聞いたり、電話で近況報告をする際に意見を聞いている。家族から得た意見を日誌に記載し、職員間で共有している。遠方の方を中心に手紙や写真を送っているが、来訪する家族にも写真等の提供を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を述べられるよう、代表者側から随時声をかけるようにしている。	今年3月から月1回の定期会議を再開した。会議では職員が活発に意見交換することができている。管理者や代表者は随時、職員の意見を聞いている。業務の役割分担に関する話し合いを進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事前に休日の希望を聞き取り、希望通りに休日を取得できるよう調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加ができるよう、随時希望をとり、参加へとつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員同士の交流や意見交換の場は作れていない。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安について、耳を傾け、一つひとつ対応を検討し、安心して暮らせる環境づくりを実施している。本人の性格や生活歴を尊重した生活ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談や電話連絡する機会を設け、家族の困っている事柄について確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その他のサービスの活用は多くないが、必要に応じて医療施設と連携をとり、本人にあったサービスが利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自宅で行ってきた生活や楽しみを尊重し、施設内でも行えるものは職員とともに楽しみながら行えるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一時的に面会を制限していたが、現在は通常通り面会を実施している。入居後、入浴への抵抗感が強い方への支援と一緒に検討する等、協力して頂けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所との関係を維持できている方は少ない。家族以外の方であっても馴染みのある方の会う機会を制限しないよう支援しているが、コロナ禍によって制限をせざるを得ず、あまり関係を維持できていない。	友人や知人が来訪する利用者もおり、親戚や友人から手紙が来た際は返事作成の準備や投函を手伝っている。通院の際に昔の知人に会おう利用者も多い。家族と馴染みの飲食店に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	しっかりと会話が行える利用者同士が楽しめるよう座席に配慮している。口調が荒い方もおり、会話がうまくできない方が責められる場面もあるが、会話の内容を適宜確認し、孤立しないようにも配慮している。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、1度ではあるが転居先等に連絡し近況の確認を行っている。現在、退去後に相談や支援をした事例ないが、必要な場合には相談には随時対応してく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人本位に検討ができるよう議論をしているが、一部職員本位な議論になってしまうこともあり、まだ課題はある状況。	8割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も会話から汲み取っている。フェイスシートに生活歴を記載しているが、趣味や嗜好の記載は少ない。	センター方式のB-3シートを参考に、フェイスシートの「生活歴」や「特記事項」の欄を使って、趣味や嗜好の情報を記載し共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全員に対しては行っていないができるだけ入居時に家族等から話を聞き、生活歴やどのような生活リズムだったか、どういったことに生きがいを感じていたのかを確認し、書類にまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する力等については日々の業務の中で口に出し、共有ができています。それらをできるだけケアに反映していくことが今後の課題である。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員で個別的にケアの検討はなされていたが、統一したケアや意見交換がうまく行えていなかったため、一時休止していたユニット会議を3月より再開し、意見交換やケア方法の検討をする場を設けている。	3か月ごとにモニタリングを行い、介護計画を6か月ごとに更新している。更新時のアセスメント表、担当者会議録が整備されている。計画目標に沿った生活記録の作成を目指しているが、まだ十分にできていない。	短期目標やサービス内容に番号を振り、介護計画に関する内容には番号を添えて、ケアの実践状況や気づきを「生活記録」に記載することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録への意識は研修等を経て、向上してきているが、気づきや工夫等の細かな記録に関してはさらなる経験が必要と感じる。情報共有も適切に行えるよう、現在課題として取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービスや支援の提供については不十分な部分が多いが、できるだけ柔軟に行えるよう模索している。高齢の利用者が自宅や施設に入居している家族へ面会できるよう、家族や他施設と調整をすすめている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源の把握は不十分と感じる。またコロナ禍によって、地域との関わりが現在希薄となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に地域の病院を普段利用しているが、利用者や家族の希望があった際には、適宜適切な医療が受けられるよう病院の選定をしている。	7割ほどの利用者が協力医による月1回の往診を受けている。その他の定期通院や内科以外の通院も事業所が支援している。利用者ごとの受診記録ファイルを作成し、共有している。	

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に現在看護師はいないため、日々の体調変化や疑問点は訪問診療等で相談し確認している。受診時に情報提供が適切に行えるよう事前に資料の作成もできているが、病院看護師は多忙なこともあり十分な関係を気づけていないと感じる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先への情報提供やご家族への説明を適宜行っている。まだまだ一部ではあるが、病院関係者や担当者との関係の構築を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りケアは実施していない。できるだけ長く当施設で生活していただけるよう支援しているが、重度化や終末期を迎えた方には、病院をはじめ、他施設と連携し適切な支援が受けられるよう、転居先の検討を行っている。	事業所での看取りは行っておらず、重度化した場合は医師や家族と相談の上、スムーズに病院や他の療養型施設に移ることができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は現在実施できていないが、急変の可能性のある方に関する情報共有を行い、都度緊急時の対応を話し合っているが、全体への周知はまだ不十分と感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、災害訓練や地域の避難訓練等、一部参加を見送っていたが、今年度はできるだけ参加したいと考えている。	感染症の流行により、避難訓練や職員の救急救命訓練が行えておらず、災害時に必要な備蓄品についても準備中の段階である。	今年度から避難訓練や救急救命訓練を行う意向であり、その実施を期待したい。災害時に必要な備蓄品の整備も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し言葉かけはできているものの、誇りを損なう可能性のある言葉使いも時々みられ、細部まで徹底はできていない。	呼びかけは「さん」付けを基本に、本人が反応しやすい愛称で呼ぶこともある。申し送りは利用者から離れた所で行い、記録類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話を通して思いや希望を聞く機会は作れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に応じて調整しゆっくりと食事がとれるようにしている。食事や入浴時間以外は行動を制限せず利用者のペースで生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で衣類を選択できる方は、自身で行っている。自身で選択できない利用者に関しては職員が選ぶことがほとんどである。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理を一緒に行うということはなかなかできていないが、簡単な下ごしらえ等を行ってもらっている。食事前後の準備も、できるだけ一緒に行い、時々ではあるが食器洗いもできている。	食材会社の献立で、行事に合わせて特別料理を添えることもある。誕生日は本人の好きな献立にしたり、ケーキでお祝いをしている。利用者と一緒にホットケーキやかぼちゃ団子などを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望や体調、食欲に応じてそれぞれ個別の量を提供している。水分も1500ccを目処に各個人に応じた量が飲めるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を実施できている。各利用者に応じて、呼びかけや一部解除を実施。義歯の管理も行える方は個人で管理できるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用者はいない。排泄の失敗がある方の対応に苦慮しているが、職員間で検討しただけ衛生的に過ごせるよう工夫している。立位保持が不安定な方も2名で介助等、できるだけトイレで排泄できるようにしている。	自立している利用者も多いが、全員の排泄状況を生活日誌に記録している。排泄間隔を見ながら声かけや誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。体調や時間帯でベッド上で排泄用品を交換することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日誌を活用し排便間隔を把握し、定期的にトイレ誘導をしている。運動への働きかけは現在少ない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決まっているが、その中で気分や体調に応じて適宜入浴の日程を調整している。当日、入浴ができなかった場合も、翌日以降に随時入浴ができるよう配慮している。	午前中に一人週2回の入浴を支援している。入浴を拒む場合はその方のタイミングを見て声かけをし、午後に入浴することもある。入浴剤の種類を変えたり、職員とゆっくり話をして入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった休息の時間は設けず、その日の体調や表情に応じて休息を呼びかけている。また、同じ座位姿勢が継続しないよう、休息を呼びかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握できていないのが現状。薬の整理や準備に各職員が参加し、目的や副作用への理解が深まるようにしている。処方内容の変更時は服用後、症状に変化がないか確認するよう周知し実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅での生活習慣をできるだけ、損なわないよう支援している。毎日、焼酎を飲む習慣がある方には継続して提供し楽しんで頂いている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍によって外出や面会制限をしていたが、その中で家族の意向等に配慮し、必要に応じて外出や外食の機会がもてるよう支援していた。地域の行事には参加を見合わせている。	普段は車いすの利用者も一緒に周辺を散歩したり、コンビニエンスストアや農協に買い物に出かけている。昨年は、久しぶりに近くの公園で花見を楽しんでいる。玄関で外気浴をしたり、バーベキューをすることもある。プランターの野菜に水やりをしたり収穫を手伝う利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが希望される方には財布を預け自身で管理していただいている。コロナ禍によって使う機会は現在ほとんど作れていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や家族から連絡があった際は家族と会話ができよう働きかけている。利用者本人による手紙やりとりはないが、定期的に職員から近況報告の手紙を送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度にならないよう配慮しながら、季節に応じた装飾を行っている。その他、行事や外出、季節ごとのイベントで撮影した写真を貼り、楽しみのある空間作りを行っている。	居間と食堂は窓に面した明るく開放感のある造りで、大きなソファもあり利用者は好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。壁には利用者と一緒に制作した作品や水墨画の額縁などが飾られている。浴室にはリフト浴の設備もあり、利用者が安心して過ごせる環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格に合わせた席やソファの位置を随時検討し配置を工夫している。また、一人の利用者の居場所を確保することで他者の生活が制限されないよう配慮もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、自宅で使用していたものを活用するため、入居時に持参していただくようにしている。その他、思い入れのある写真等を居室に飾る等、居心地よく過ごせるよう配慮している。	各居室に花や動物の名前が付けられている。ベッドとクローゼットが備え付けられている部屋に、テレビや鏡、収納ケースなど本人が使いやすい物を持ち込んで居心地よく過ごせるように工夫している。カレンダーや写真が飾られている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身で物品をすべて管理したい方や、一人では管理することができない方等、それぞれの方の特性に応じた環境づくりをしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019600105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽		
所在地	苫前郡苫前町字苫前古丹別249番地9		
自己評価作成日	令和5年3月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0196400105-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人と地域や家族とのつながりを大切にしており、コロナ禍によって一部地域との交流に関して制限をせざるを得なかったが、できるだけ家族とのふれあいが行えるよう支援してきた。家族の希望を反映し、家族と本人と一緒に食事をするために外出ができるようにしたり、制限を設けながらも直接面会が行えるよう支援を行っている。職員間の情報共有等にははまだ課題も多いが、会議を再開したり、チャットツールを活用したり少しずつ改善を目指している。

利用者一人ひとりが、自分のペースで生活ができるよう配慮している。現在、一時的に入居人数が減少していることもあるが、一人ひとりの生活に目を向けた支援が行えている。食事内容も、楽しみがあるものを常に検討し、調理や提供を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や、事務所の掲示し意識して見られるようにしている。理念を念頭に入れて言葉掛けにも気を付けるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大以前は、地域の行事への参加や、ご家族が参加できる行事を実施していたが、最近は殆どできていない。感染状況をみながら買い物や参加の機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学や相談、問い合わせを随時受けている。外部研修や、日々の利用者の言動の理解を踏まえ知識を高めながら地域の方との関わりに活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍によって運営推進会議は開催できておらず、書類のみの提供である。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修には感染状況を鑑みながらできるだけ参加できるようにし、職員へ伝達できるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが意識し疑問点や課題があれば、その都度話し合いを行うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時、職員間で話し合いの場を設け、対応を模索し意識をもってケアにあたっている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会は殆ど持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はすべての項目について説明を行い、納得していただけるよう努めている。不安や疑問がある際は必ず確認し説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を気軽に言える雰囲気作りを行い、入り口には意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人の意見や提案を気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司との面談を行い、職員の意向や相談を受けながら業務への取り組み等の指導をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で集団研修参加は最小限に控えているが、外部での研修会参加も含め、個々のケアに対する意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということもあり、多職種との交流はほとんどない。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は本人の性格の把握に努め、必要な対応を協議している。 介護員に関わらず、日々のコミュニケーションをとり、要望を言いやすいような環境構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の困りごとを聞き取り、安心していただけるよう生活の様子を随時報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に医療サービスとはなるが、利用開始当初に必要なと思われる場合に、随時連携を図り、適切なサービスや受診が受けられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の業務に追われ、一緒に時を過ごすということが常に行われているかといわれるとできていないが、一緒に食事をしたり、隣に座って一緒に過ごす時間をつくっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、面会もなく関わりをもとめない家族もあり関係の構築に苦慮している面もある。日常生活や受診の報告等は適時行い、情報提供を実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、馴染みのある方との交流が行えるよう支援している。地域の方等や遠方からきた友人等には感染症拡大等の理由がない限り、会話や写真撮影し、楽しめるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両者感で円滑な交流が図れるよう、座席の配置等を随時検討し変更している。ユニット関係なく他利用しと関われるよう支援している。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後に少し時間が経過してから、近況の確認の連絡をできるだけ行うようにしている。転居後、相談や支援を行った実績はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ、本人本位の生活が送れるよう支援しているが、普段から暮らし方の希望等を把握する機会は少ないと感じる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やどのような暮らし方をしていたのかを入居時や家族との連絡時に随時確認している。普段の会話やグループホーム内で環境整備のために活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スタイルや体調の把握できるよう、職員間での情報交換は適宜行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や介護職員と話し合い、介護計画を作成しているが、家族の積極的な参加を促すことはできていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有に努め実践に活かすことはできているが、口頭での共有も多く、日誌等への記録量は乏しい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でも定期的に家族の面会ができるように調整をしている。その他、利用者や家族の意向に合わせ、家族との外出等ができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあって、ここ数年は地域の活動に参加することが殆どできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族と話し合いながら、適切な医療が受けられるよう配慮している。地域的に医療資源が乏しく、主に近隣の病院を利用することになるが、病状によっては必要な病院への受診介助を実施している。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化等は職員間で情報共有し、月1回の訪問診療時に報告、相談している。現在看護職員はいないため、体調の変化がみられた場合は、適宜かかりつけ医に連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は適宜、情報提供を実施している。普段から病院主催の会議に参加し、関係構築を図っている。又、訪問診療の際に普段の生活や体調の変化を月1回提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りケアは行っていない。重度化や終末期に差し掛かった場合は、地域の施設や病院と連携し、状態に応じた施設への転居ができるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。救急時は救急要請を行い、指示の下適宜対応はしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染等で防災訓練や地域の避難訓練で実施できていないものがある。新職員へ災害対策は手が届いていない状況である。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合った言葉かけはできているが、言葉使いは一部不適切と感じる部分がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに耳を傾けることはできているが、希望や意向を聞き取り、反映する機会は少ない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等も体調に応じて時間をずらす等、工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や離床時、排泄後に都度衣類の乱れがないか確認し、身だしなみを整えることができている。衣類を自身で選択できない利用者も多いが、職員が手動で衣類の選択を実施している。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加できる利用者が少なく、一緒に行くことはできていないが、もやしの芽取り等、簡単な作業は随時手伝っていただいている。食事前の準備や食べ終わった食器の片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や、医師の指示に応じた水分量や食事量を提供できている。嚥下機能や食事動作に応じて食形態の見直しも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者へ口腔ケアを呼びかけ実施できている。各利用者に応じたケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄ができるよう支援しており、日中は全員トイレ排泄ができています。排泄動作は一部介助が必要な方が多いが、一人ひとりに合わせた介護用品の選定、排泄介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を毎日確認し、トイレ誘導や水分提供を働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日は職員が決めたものとなっている。体調不良等によって当日入浴できない場合には、翌日入浴するなど、状況に応じた対応はしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、自分のタイミングで休息がとれるようにしている。自身で移動できない、伝えられない利用者はその日の体調や、顔色を観察し適宜休息がとれる用船している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	影響が大きい薬に関しては目的や副作用について情報共有し、副作用についても周知や症状の変化を観察できているが、内容の把握は不十分と感じる。服薬支援は適切に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な活動や楽しむことができる活動を検討しているが、頻度は少ない。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じての日常的な外出支援はできていない。家族や職員との外出は新型コロナウイルスの感染状況によるが、希望に沿った外出ができるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、希望された一部の利用者は個人で金銭管理している。新型コロナウイルスによって外出、特に買い物をする機会はほとんどないため、お金を使用する機会はあまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の希望時や、家族から連絡がきた際に会話ができるように支援できている。利用者と家族間での手紙のやり取りは取り組んでいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に一定の温度や光量が維持できるよう、常に配慮できている。あまり多くのものは飾れず、ささやかではあるが季節感を感じられるような掲示物や装飾をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係性に配慮し、定期的に配置換えを実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していたものをできるだけ活用できるように本人、及び家族へ説明している。入居後も、できるだけ自宅で使用していたものを活用し環境整備をするため家族へ依頼してはいるが、家族の面会がなく実現しないことが多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりのわかることに応じて、目印となる掲示物を設置したり、活動がし易いよう環境整備をしたりしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム優芽

作成日：令和 5年 4月 26日

市町村受理日：令和 5年 5月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の内容が盛まれていない。 職員間で理念や目標を共有する機会が少ない。	理念を見直し、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を盛り込む。 理念、目標を職員間で定期的に確認する機会をつくる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を盛り込んだ理念の検討、修正。 月1回の職員会議の場で理念と目標の確認を行う。	3ヶ月
2	4	コロナ禍を理由に運営推進会議が開催できていなかった。	運営推進会議を定期的に開催する。	5月以降に1度、運営推進会議を開催する。以降は2ヶ月に1回、定期的に開催する。 会議ごとにテーマの選定し、会議後は議事録の作成し配布する。	3ヶ月
3	23	生活歴等は可能な限り把握し、フェイスシートに記載し共有しているが、趣味や嗜好に関する記載が少ない。	利用者や家族へ聞き取りを行い、趣味嗜好に関する情報を随時更新していく。	センター方式B-3シートを活用し、各利用者に関し聞き取りを行い趣味や嗜好の確認を行う。収集した情報をフェイスシートに記載し、随時更新をしていく。	6ヶ月
4	26	ケアプランの内容に沿った内容の生活記録の記載が不十分。	ケアプランに沿った内容の記録を充実させる。	ケアプランの短期目標に番号を振り、番号を添えてケアプランの内容に沿った記載を行っていく。 将来的にサービス内容にも番号を振り、より詳細な記録を目指していく。	1年
5	35	コロナ禍を理由に避難訓練等が実施できていなかった。 災害時に必要な食材等の備蓄が不十分。	年2回以上、避難訓練等を実施する。 災害時に必要な備蓄品の準備を行う。	5月24日に避難訓練を実施予定。今後は年2回以上実施する。 BCP策定も併せて行い、必要な備蓄品の確認、整備を行う。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。